

豊饒な伊勢志摩における環境配慮型「あおさのり養殖」の未来に向けて

■プロジェクト実施者

三重外湾漁協あおさ養殖BC委員会
 (三重外湾漁業協同組合および漁業者、志摩市、南伊勢町、紀北町により構成)



あおさのり養殖風景

■プロジェクトの概要

三重県は全国一のあおさのり生産量を誇り、とくに大産地である伊勢志摩地方ではリアス式海岸と遠浅の漁場を利用し、**あおさのりの養殖**事業に取り組んでいます。近年は、魚や鳥類(カモ)から海苔を保全しており、**生産量の維持・回復により、脱炭素社会への貢献に寄与**しています。

さらに**環境に配慮した養殖方法**として、①種付けでは、人工的な種付けを行わず**天然の胞子を網に付着**させており、②食害防護対策では、海苔養殖の**古網を再利用(リユース)**しています。

全国シェアNo.1

▽伊勢志摩地方は、リアス式海岸に遠浅の漁場が多くあおさのり養殖に適している。
 ▽そのため、半世紀以上前からあおさのり養殖が盛んに行われており、三重県が全国シェアの6割を占めるまでとなっている。

半世紀以上にわたり、あおさのり養殖事業を通じ
CO₂を吸収し続けてきた地球に優しい事業

CO₂吸収量の減少

▽地球温暖化とともに進む高水温
 ▽2017年から始まった黒潮大蛇行による高水温、潮位の変化
 ▽局地的な豪雨等から引き起こされる赤潮
 ▽慢性的な課題となっている漁業者の減少

漁場環境の変化や漁業者の減少により
CO₂吸収量(=生産量)が減少してきた

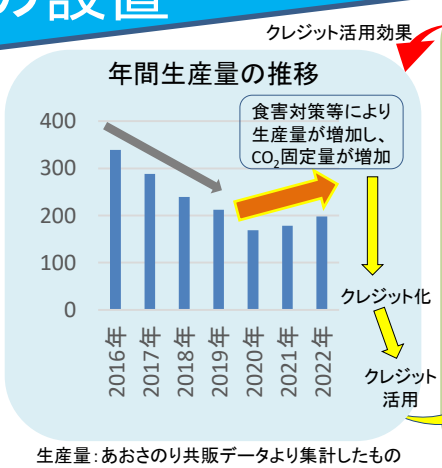
食害ネットの設置

養殖事業における気候変動対策(ブルーカーボンの創出)

▽高水温の影響で魚の摂食活動が年中通して活発な状態であるため、あおさのり養殖網の周囲に防護ネットを張り魚の侵入防止対策を行った。
 また、同じく上部にも防護ネットを張り鳥類の侵入を防止した。
 ▽これらの対策により、CO₂吸収量(生産量)が維持・回復している。

今後の予定(クレジットの活用)

▽CO₂吸収量を維持するための**食害防護ネット設置の持続・推進**
 ▽地元小学校等への**食育、環境教育活動の推進、未来の担い手対策**
 ▽イベント等のPRIによる**あおさのりファンの拡大**=需要増⇒生産増へ



南伊勢町産あおさ
 あおさ生産量全国一の三重県内でも南伊勢町五ヶ所湾で採れたあおさは色が濃く、香りが高い品として評価されています。認定品はその年に採れた風味が良い「水後イ」等級以上のものです。

イベント・ブランド化等によるPR
 (南伊勢町 南伊勢ブランド認定)



地元行政、市民と連携した干潟などの環境再生活動を継続
 (志摩市 あおさのり収穫体験)